

1 調査概要

1.1 事業場の名称

Dr. Drive 本所店

1.2 事業場の所在地（住居・地番表示）

（住居表示）東京都墨田区太平1丁目18-22

（地番）東京都墨田区太平一丁目3番13、3番2

1.3 事業場の面積（㎡）

敷地面積：578.1㎡（CADによる）

1.4 調査目的

東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」第116条に基づくガソリンスタンドの主要な施設の除却時について、東京都土壤汚染対策指針（平成31年東京都告示第394号）に基づき土壤汚染状況調査を実施した結果、鉛及びその化合物の土壤含有量基準不適合が確認されたため、基準不適合地点において、深度方向の土壤汚染状況を確認するために実施した。

1.5 指定調査機関等

・詳細調査を行った指定調査機関

グリーンサーチ(株)

指定調査機関指定番号：2003-3-2078

所在地：東京都品川区東品川3-32-34

電話番号：03-5769-2210

技術管理者：[redacted]（技術管理者証交付番号：第[redacted]号）

・土壤分析を行った機関

グリーンサーチ(株)

登録番号：埼玉県 第597号

事業区分：濃度

所在地：埼玉県さいたま市西区三橋6-70

計量管理者：[redacted]

1.6 調査期間

令和3年12月19日：土壤調査

令和3年12月20日～令和3年12月27日：土壤分析

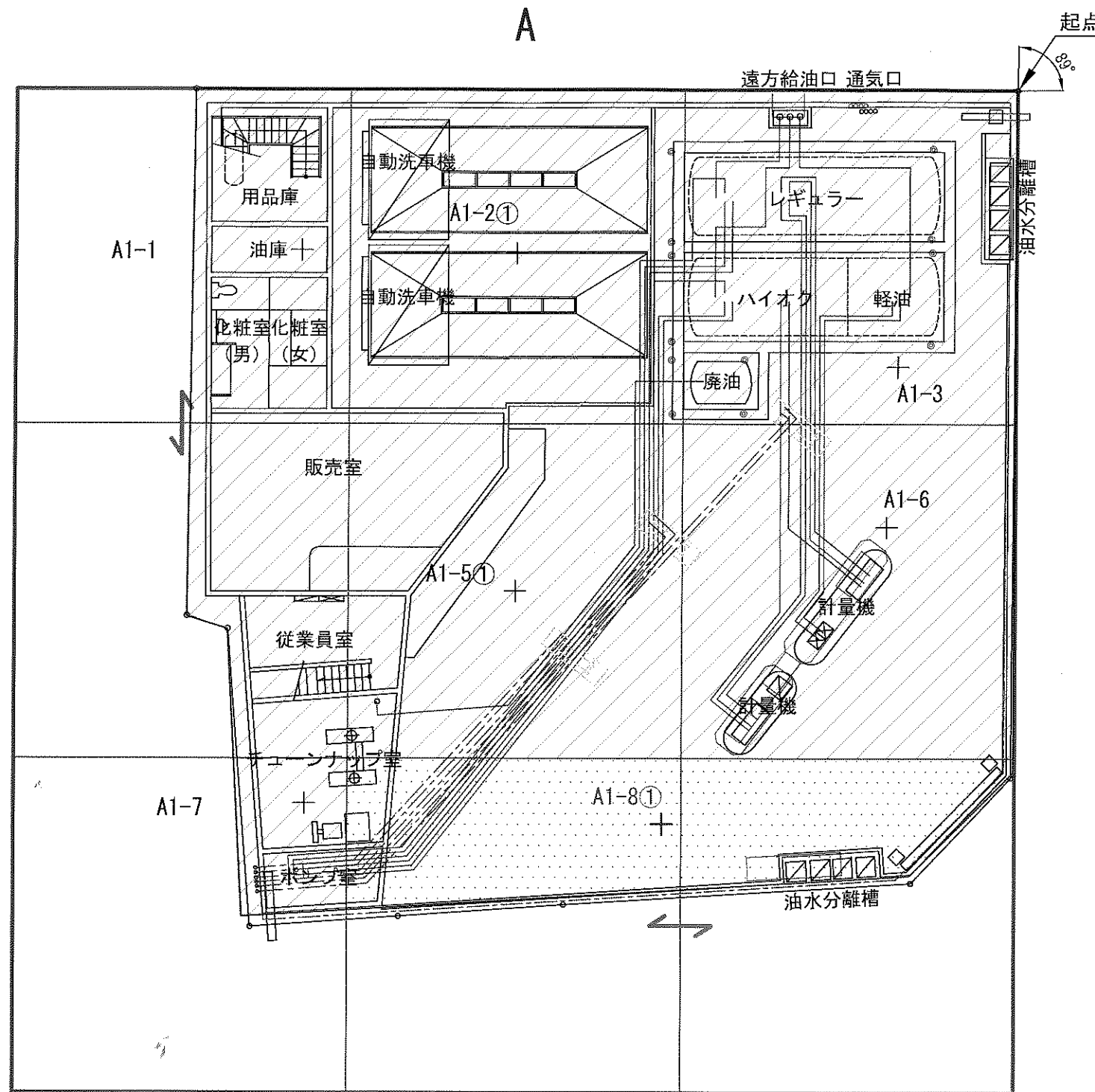
2 調査対象物質の選定

土壤汚染状況調査の土壤調査結果より、次の物質を調査対象物質として選定した。

- ・鉛及びその化合物（含有量）

3 調査位置・調査深度の設定

調査位置は、土壤含有量基準不適合地点のA1-8①地点とした（図5参照）。



区画の面積	
A1-1+A1-4	89.5㎡
A1-2	100.0㎡
A1-3	99.9㎡
A1-5	100.0㎡
A1-6	99.8㎡
A1-7	15.1㎡
A1-8+A1-9	73.8㎡

—— 油配管
- - - 架空油配管

A1-8①: 調査地点番号 1地点

↔ : 統合した単位区画

土壌分析結果一覧

試料名			鉛溶出量	鉛含有量
調査地点	種別	調査深度	(mg/L)	(mg/kg)
A1-1	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	21
A1-2①	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	0.001	14
A1-3	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	37
A1-5①	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	0.002	54
A1-6	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	140
A1-7	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	< 10
A1-8①	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	160
基準			0.01以下	150以下

赤字は基準不適合を示す

30m格子での各区画番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

敷地面積: 578.1㎡

SS開所年月日: 1959年11月01日

SS改造年月日: 1991年11月01日

※開所時の設備状況は不明

※標準断面図使用: 配管, 廃油タンク, 地下タンク

※配管底面直下の深度: 0.15m

※廃油タンク底面直下の深度: 2.6m (1991年設置)

※地下タンク底面直下の深度: 3.4m (1991年設置)

▨ : 土壌基準適合区画

▤ : 土壌基準不適合区画

□ : 実測

鉛汚染のおそれがある施設は不明

+ 【埋設設備がない区画】

【土壌調査】 A1-8①

・分析項目: 鉛 (含有量)

・採取深度: 1.0m, 2.0m, 3.0m, 4.0m, 5.0m
: 6.0m, 7.0m, 8.0m, 9.0m, 10.0m

※分析は2深度連続で基準適合が確認できる深度まで実施する

調査機関

グリーンサーチ株式会社

名称

Dr. Drive本所店 詳細調査

図面名称

図5 調査位置図 (鉛及びその化合物 (含有量))

4 調査方法

試料採取方法および試験方法は次の方法で実施した。

【鉛及びその化合物】

調査方法 : 土壌調査

調査地点 : 1地点

採取方法 : 東京都土壌汚染対策指針に基づき実施した。

試験方法 : 平成15年3月6日環境省告示第19号に定める方法

土壌含有量基準 = 150mg/kg以下

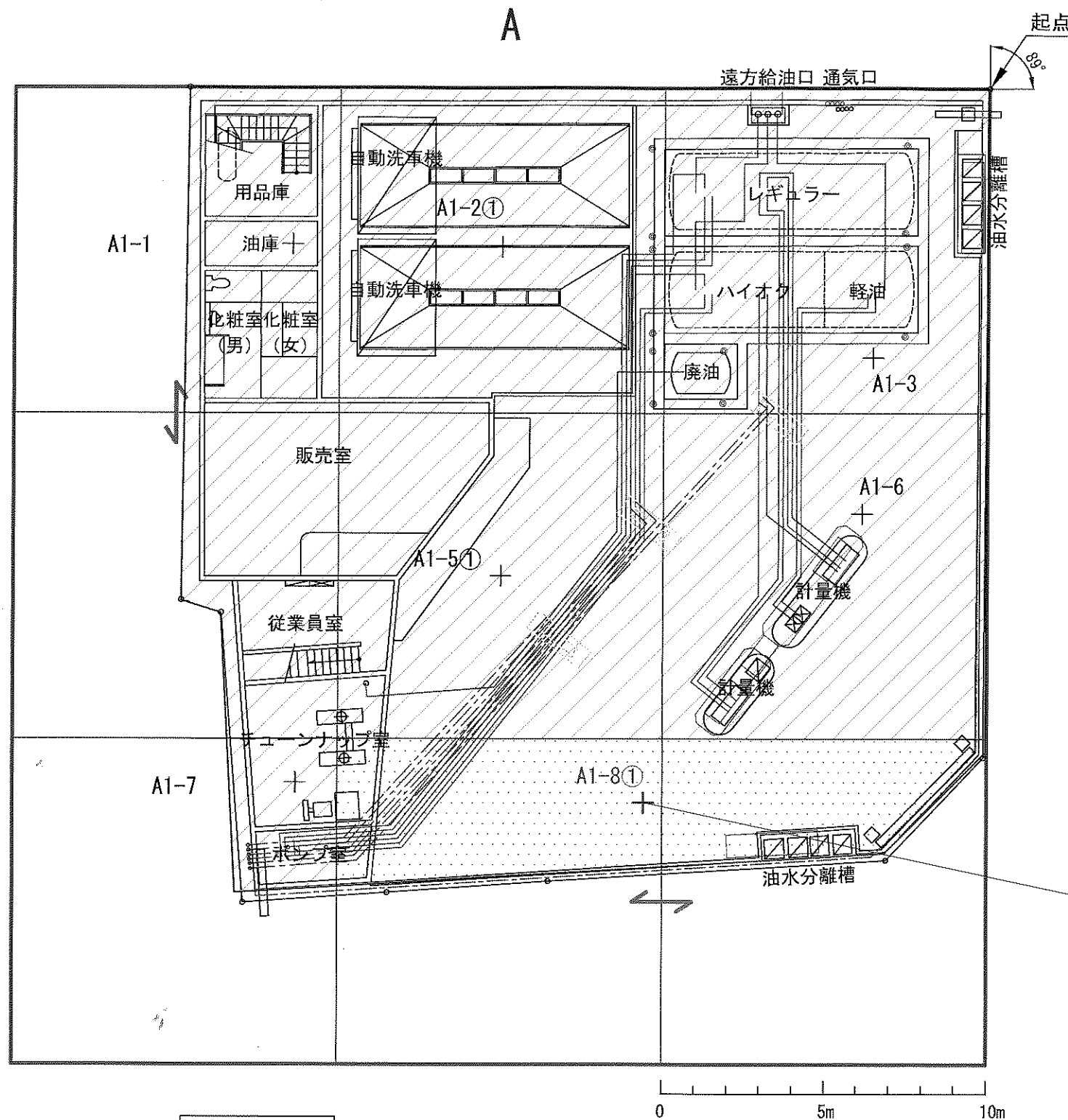
採取深度 : 1.0m、2.0m、3.0m、4.0m、5.0m、6.0m、7.0m、8.0m、9.0m、10.0m

分析は2深度連続で基準適合が確認できる深度まで実施した。

5 調査結果

鉛及びその化合物は、1.0m および 2.0m の 2 深度連続で土壌含有量基準に適合し、土壌汚染深度が確定された。

調査結果を図6に示す。



区画の面積	
A1-1+A1-4	89.5㎡
A1-2	100.0㎡
A1-3	99.9㎡
A1-5	100.0㎡
A1-6	99.8㎡
A1-7	15.1㎡
A1-8+A1-9	73.8㎡

—— 油配管
 --- 架空油配管

A1-8①: 調査地点番号 1地点

↔: 統合した単位区画

土壌分析結果一覧

試料名			鉛含有量
調査地点	種別	調査深度	(mg/kg)
A1-8①	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	160
		1.0m	140
		2.0m	150
基準			150以下

赤字は基準不適合を示す

30m格子での各区画番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

敷地面積: 578.1㎡

SS開所年月日: 1959年11月01日

SS改造年月日: 1991年11月01日

※開所時の設備状況は不明

※標準断面図使用: 配管, 廃油タンク, 地下タンク

※配管底面直下の深度: 0.15m

※廃油タンク底面直下の深度: 2.6m (1991年設置)

※地下タンク底面直下の深度: 3.4m (1991年設置)

▨: 土壌基準適合区画
 ▤: 土壌基準不適合区画
 □: 実測

鉛汚染のおそれがある施設は不明

調査機関		名称	
グリーンサーチ株式会社		Dr. Drive本所店 詳細調査	
		図面名称	
		図6 結果図 (鉛及びその化合物 (含有量))	